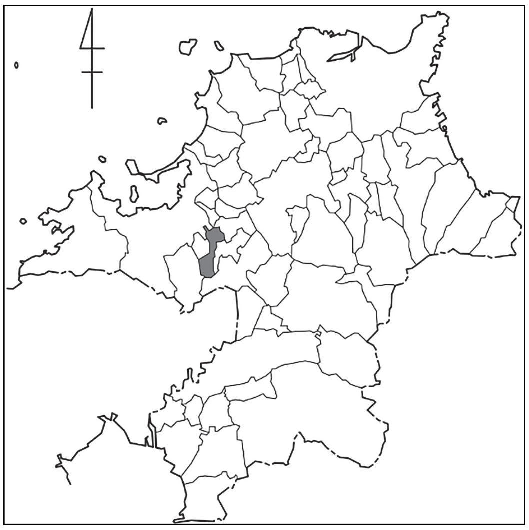
だい　どう　ばた

大道端遺跡 1

―第１次調査―

大野城市文化財調査報告書　第183集



２０２１

大野城市教育委員会

序

福岡県大野城市は福岡平野の南部に位置し、西暦665年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城跡」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた街です。市域は南北に長い形をしており、大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡の国指定史跡を始め、多くの歴史遺産があります。

大道端遺跡は大野城市のほぼ中央、白木原４丁目に所在します。本報告が第１次調査であり、調査の結果、古墳時代前期の集落遺跡であることが判明しました。付近には同時代の原ノ畑遺跡が広がっており、関係が注目されます。また、近世から近代にかけての土地の区画溝と思われる遺構を確認しました。これらの成果が学術研究はもとより広く一般に活用され、地域の歴史や文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを願っています。

最後になりますが、発掘調査ならびに報告書作成にあたり多大なるご理解、ご協力いただきました地権者並びに関係各位に対し心より厚くお礼申しあげます。

令和３年３月31日

大野城市教育委員会
教育長　吉富　　修

例　　言

1．本書は、福岡県大野城市白木原４丁目 90 番５・６、143 番３、144 番２に所在する大道端遺跡第１次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査は集合住宅建設に伴う事前調査として、事業主体者である株式会社ファミリーから委託されて実施した。

3．発掘調査は澤田康夫・木原尭が担当した。

4．遺構実測は澤田・木原が行った。

5．遺構写真は澤田・木原が撮影した。

6．遺物写真は写測エンジニアリング（株）に委託し、牛嶋茂が撮影を行った。

7．遺物実測・拓本・製図は木原・小畑貴子・古賀栄子・小嶋のり子・篠田千恵子が行ったほか、遺構図製図は吉田薫が行った。

8．本書に使用する土色名は『新版標準土色帖』（農林水産省技術会議事務局監修）を使用した。

9．本書図中の方位は磁北を示す。

10．本書に掲載した周辺遺跡分布図は国土地理院発行の1／25,000 地形図『福岡南部』を使用した。

11．本書に掲載した調査地位置図・調査区周辺字図は『大野城市統合型ＧＩＳ』に加筆したものである。

12．本書に掲載の出土遺物・実測図・写真は、大野城市教育委員会が保管・管理している。

13．本書における遺構の分類記号は以下のとおりである。

SC：竪穴住居、SK：土坑、SD：溝状遺構、SP：ピット

14．本書の執筆・編集は木原が行った。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに……………………………………………………………………………………………… 1
　１．調査に至る経緯……………………………………………………………………………… 1
　２．調査組織………………………………………………………………………………………… 1
Ⅱ．位置と環境……………………………………………………………………………………… 3
　１．地理的環境……………………………………………………………………………………… 3
　２．歴史的環境……………………………………………………………………………………… 3
Ⅲ．調査の結果……………………………………………………………………………………… 7
　１．調査概要………………………………………………………………………………………… 7
　２．遺構と遺物……………………………………………………………………………………… 9
Ⅳ．総括………………………………………………………………………………………………… 17

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡分布図(1/25,000)…………………………………………………………… 5
第２図　調査地位置図(1/5,000) ……………………………………………………………… 7
第３図　遺構配置図(1/300) …………………………………………………………………… 8
第４図　SC01実測図(1/60)………………………………………………………………… 10
第５図　SC01出土遺物実測図(1/3) ……………………………………………………… 10
第６図　SK01・SK02・SK03実測図(1/40)……………………………………………… 11
第７図　SD01・SD02・SD06出土遺物実測図(1/3) ………………………………… 13
第８図　SD08出土遺物実測図①(1/3) …………………………………………………… 15
第９図　SD08出土遺物実測図②、ピット群出土遺物実測図、表採遺物実測図(1/3) …………… 16
第10図　調査地周辺字図(1/3,500) ……………………………………………………… 18

表　目　次

第１表　大道端遺跡第１次調査出土遺物観察表①…… 19
第２表　大道端遺跡第１次調査出土遺物観察表②…… 20

図　版　目　次

図版１　（１）調査区北側全景「上が北」（東上空から）　（２）調査区南側全景「上が北」（東上空から）
図版２　（１）SC01全景（東から）　（２）SC01土層（西から）
　　　　（３）SD01･SD07南側壁面土層（北から）
図版３　（１）SK01（北から）　（２）SK02（南から）
　　　　（３）SK03（東から）
図版４　出土遺物①（SC01、SD01）
図版５　出土遺物②（SD02、SD06）
図版６　出土遺物③（SD08、ピット）

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

調査地は大野城市白木原４丁目 90 番５・６、143 番３、144 番２に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地「大道端遺跡」にあたる。

平成 28 年度に確認調査を実施した結果、遺構が確認された。その後、事業者により集合住宅の建設が計画され、計画通りに工事が施工されると遺跡が破壊されることから、事業者との協議を重ねた。協議の結果、遺跡保護は設計上困難であることから、遺跡が破壊される部分について発掘調査が必要と判断された。

事業者からの造成・建設予定図面を添えて 93 条に基づく届出を福岡県教育長あてに提出し、令和元年５月 14 日付で発掘調査の指示が出された。また、平成 31 年４月 26 日付で埋蔵文化財発掘調査の依頼書・承諾書が市に提出された。これを受け、発掘調査は令和元年度、整理・報告書作成は令和２年度に実施する旨、協議書を締結し、年度ごとに委託契約を締結し事業を実施した。

調査面積は、約 1,600 ㎡である。令和元年５月 27 日～令和元年８月８日まで現地での調査を実施し、令和２年度に整理作業及び報告書作成を実施した。なお発掘調査及び整理作業に関する費用は事業者が負担した。

２．調査組織

令和元年度・令和２年度における調査体制は以下の通りである。

令和元年度（発掘調査）

教育長	吉富　修		
教育部長	平田　哲也		
ふるさと文化財課長	石木　秀啓		
係長	林　潤也	佐藤　智郁	上田　龍児
主査	徳本　洋一		
主任主事	秋穂　敏明		
技師	山元　瞭平		
主事（任期付）	鮫島　由佳		
嘱託（調査）	澤田　康夫	木原　尭	
嘱託（啓発）	山村　智子	浅井　毬菜（～ 12 月まで）	
嘱託（庶務）	西村　友美	永松　綾子	

令和２年度（整理作業）

教育長	吉富　修		
教育部長	日野　和弘		
ふるさと文化財課長	石木　秀啓		
係長	林　潤也	佐藤　智郁（～４月まで）	上田　龍児
主査	徳本　洋一		
主任主事	秋穂　敏明		
技師	山元　瞭平	齋藤　明日香	
主事（任期付）	鮫島　由佳		
会計年度任用職員（調査）	澤田　康夫	木原　尭	
会計年度任用職員（啓発）	山村　智子	深町　美佳	
会計年度任用職員（庶務）	西村　友美	三好　りさ	

発掘調査作業員

有水　知晴　　大浦　旗江　　大津　幸男　　梶原　久美子　　倉住　孝枝　　篠崎　繁美
田代　薫　　田中　悦子　　田野　和代　　東島　真弓　　宮原　ゆかり　　安里　由利子

整理作業員

古賀　栄子　　小嶋　のり子　　白井　典子　　津田　りえ　　仲村　美幸　　氷室　優
松本　友里江　　村山　律子（令和元年度）　　吉田　薫（令和元年度）
小畑　貴子（令和２年度）　　篠田　千恵子（令和２年度）

Ⅱ．位置と環境

１．地理的環境

大野城市は南を脊振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面する福岡平野東南の最奥部に位置する。また、市域は南北に細長く中央部がくびれた形を呈し、東側を月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、中央に御笠川が貫流する。

今回調査した大道端遺跡は白木原４丁目に所在し、大野城市の市域幅が最も狭くなる市の中央部に位置する。本遺跡はこれまで調査歴が無く、本調査が第１次調査である。一帯は低層の宅地化が進み、平坦な地形となっており、旧地形は不明確である。

２．歴史的環境

旧石器時代

釜蓋原遺跡、雉子ヶ尾遺跡、松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡などの丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃などの遺物が確認されている。

縄文時代

市域では草創期の遺構・遺物は確認されていない。早期になると遺跡数が増加し、釜蓋原遺跡、雉子ヶ尾遺跡、本堂遺跡、薬師の森遺跡、古野遺跡などの丘陵上で、押型文土器や石器が出土している。また、石勺遺跡など平野の微高地上にも遺跡が展開する。前期〜中期の遺跡は市域では確認されていない。後期〜晩期の遺跡は牛頸塚原遺跡、牛頸日ノ浦遺跡が存在し、竪穴住居や土坑が確認されている。また、薬師の森遺跡では多数の落とし穴が確認されており、縄文時代に位置づけられる可能性がある。

弥生時代

弥生時代の遺跡は市域北部の丘陵部や御笠川周辺の平野部に展開する。前期の墳墓遺跡は北部の丘陵地に集中する。御陵前ノ椽遺跡、中・寺尾遺跡、塚口遺跡で甕棺墓、土坑墓、木棺墓などが確認されており、南部でも牛頸日ノ浦遺跡で甕棺墓、土坑墓が確認されている。また、集落遺跡として、川原遺跡、御陵遺跡、仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が確認されている。平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡は、前期末頃〜中期まで存続する。また、薬師の森遺跡や川原遺跡では、早期〜前期の遺構が確認されている。

中期は中・寺尾遺跡、森園遺跡で甕棺墓、土坑墓、木棺墓、石棺墓などが確認されている。集落は前期末から存続する平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡、丘陵上の中・寺尾遺跡、森園遺跡、南部の本堂遺跡が見つかっている。

後期の遺跡は仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、本堂遺跡の集落遺跡のほか、新たな集落遺跡として村下遺跡、榎町遺跡が確認されている。仲島遺跡では中国の新（西暦８〜25年）

代の青銅製貨布や青銅製鋤先、青銅器鋳型片、銅鏡片、銅鏃などが出土しており、拠点集落の１つと考えられる。

古墳時代

前期の遺跡は、集落遺跡として、弥生時代後期から継続する仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡がある。さらに、瑞穂遺跡や本書で取り上げる大道端遺跡に隣接する原ノ畑遺跡などが出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡でも再び集落が形成される。また、市域において前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺では江戸時代に三角縁神獣鏡が出土しており、この地域に有力な在地勢力が存在したと考えられる。

中期の墳墓は、５世紀前半の円墳である笹原古墳、隣接して５世紀後半の帆立貝式前方後円墳の成屋形古墳が築造されており、御笠川流域の盟主墓と位置づけられる。また、５世紀後半になると牛頸塚原古墳群、古野古墳群で群集墳が形成される。前期から継続する石勺遺跡は、初期のカマドや朝鮮半島系軟質土器が出土しているほか、滑石製品の工房と考えられる住居が確認されることから拠点集落と考えられる。このほか、中・寺尾遺跡、森園遺跡、上園遺跡、仲島遺跡、金山遺跡、原田遺跡で散発的に集落が認められる。

後期の墳墓として、月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけて大規模な群集墳が営まれ、乙金北古墳群、持田ヶ浦古墳群、善一田古墳群などが該当する。また、市域南部では、須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通古墳群、牛頸後田古墳群、牛頸小田浦古墳群などがある。梅頭窯跡では、窯を墳墓として転用しており、象嵌太刀が出土した。これらの群集墳は６世紀後半から７世紀にかけて築造されており、８世紀代まで追葬が行われている。集落遺跡は、仲島遺跡や薬師の森遺跡、南部の牛頸塚原遺跡群、牛頸日ノ浦遺跡群、上園遺跡などがある。

牛頸窯跡群は６世紀中ごろから操業が始まり、以降、規模を拡大していく。一方、乙金地区でも６世紀後半～７世紀初頭を中心に乙金窯跡、雉子ヶ尾窯跡、裏ノ田窯跡などが操業するが、いずれも小規模である。

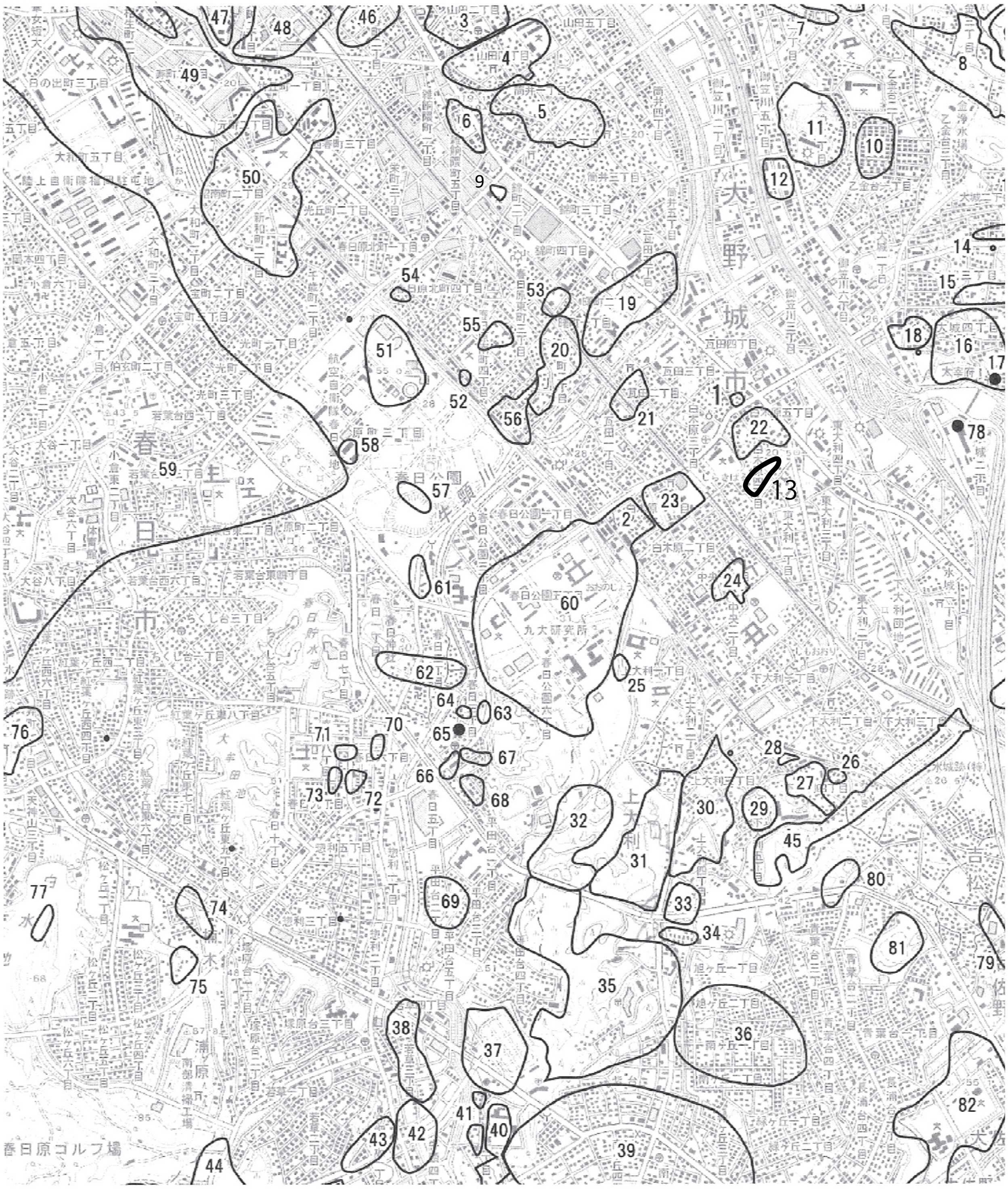
飛鳥時代

７世紀前半代は集落・墳墓ともに前代の様相を踏襲する。７世紀後半代に入ると、東アジアの動乱に倭も巻き込まれ、663 年白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗北する。これを受け、664 年に水城、665 年に大野城が相次いで築造された。

奈良時代

奈良時代になると、律令国家が成立し大宰府から水城の西門、東門を通る官道が整備された。市域では、谷川遺跡や池田遺跡で官道が確認されている。仲島遺跡では井戸や人面墨書土器が確認されており、隣接する福岡市の井相田Ｃ遺跡と合わせて考えると、官衙等の公的施設の性格が想定される。その他、原ノ畑遺跡でも掘立柱建物、土坑などの遺構が確認されている。また、牛頸塚原遺跡、牛頸日ノ浦遺跡等で、大量の須恵器が出土しており、須恵器生産に携わった人々の集落跡と考えられる。この他、石勺遺跡では火葬墓が確認された。

なお、牛頸窯跡群では、８世紀前半に窯の数が増加し、大量生産が行われるようになる。



大野城市
1.古賀遺跡
2.御供田遺跡
3.御笠の森遺跡
4.宝松遺跡
5.村下遺跡
6.雑餉隈遺跡
7.中・寺尾遺跡
8.薬師の森遺跡
9.錦町遺跡
10.銀山遺跡
11.ウド遺跡
12.榎町遺跡
13.大道端遺跡
14.雉子ヶ尾古墳
15.原田遺跡
16.釜蓋原遺跡
17.笹原古墳
18.金山遺跡
19.石勺遺跡
20.瑞穂遺跡
21.国分田遺跡
22.原ノ畑遺跡
23.後原遺跡
24.ハザコ遺跡
25.池田・池ノ上遺跡
26.唐土遺跡
27.谷川遺跡
28.末次遺跡
29.出口遺跡
30.上園遺跡
31.本堂遺跡
32.梅頭遺跡
33.小水城周辺遺跡
34.上大利小水城跡
35.野添遺跡
36.大浦遺跡
37.花無尾遺跡
38.日ノ浦遺跡
39.平田窯跡群
40.横峰遺跡
41.屏風田遺跡
42.塚原遺跡
43.畑ヶ坂遺跡
44.小田浦窯跡群
45.水城跡
福岡市
46.井相田Ｂ遺跡
47.麦野Ｂ遺跡
48.麦野Ｃ遺跡
49.南八幡遺跡群
50.雑餉隈遺跡群
春日市
51.駿河Ａ遺跡
52.駿河Ｂ遺跡
53.駿河Ｃ遺跡
54.駿河Ｄ遺跡
55.駿河Ｅ遺跡
56.原ノ口遺跡
57.春日公園内遺跡
58.先ノ原遺跡
59.須玖遺跡群
60.九州大学筑紫地区遺跡群
61.前ノ原遺跡
62.春日小水城跡
63.向谷西遺跡
64.向谷北遺跡
65.向谷遺跡
66.向谷南遺跡
67.向谷古墳群
68.春日平田北遺跡
69.春日平田遺跡
70.惣利北遺跡
71.惣利遺跡
72.惣利東遺跡
73.惣利西遺跡
74.楠ノ木遺跡群
75.座頭谷古墳群
76.大土居小水城跡
77.白水池古墳群
太宰府市
78.成屋形古墳
79.原口遺跡
80.神ノ前窯跡
81.篠振遺跡
82.宮ノ本遺跡

第１図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

平安時代

遺跡数が少なく、他の時代に比べて様相が不明確だが、牛頸窯跡群は規模が縮小し、9世紀中ごろに操業を停止する。墳墓としては、塚口遺跡、森園遺跡で土坑墓が確認されている。松葉園遺跡や宝松遺跡では溝から12世紀の白磁がまとまって出土しており、中国からの文物を入手できる有力な集落が出現する。

鎌倉時代～戦国時代

御笠の森遺跡、本堂遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、薬師の森遺跡でこの時期の遺構が確認されている。薬師の森遺跡では12世紀後半～14世紀にかけて中世墓が多数確認されている。御笠の森遺跡は11世紀後半以降、17世紀中頃まで集落が継続しており、16世紀後半～17世紀中頃に方形区画溝が展開し、有力農民層の集落と考えられる。また、戦国時代の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城がある。

江戸時代

後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屏風田遺跡で遺構が確認されているが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域に重複していると考えられる。なお、後原遺跡は近世白木原村の本村に比定されており、近世村落の景観を考える上で貴重な遺跡である。また、古野・原口遺跡群、薬師の森遺跡、後原遺跡では近世墓の調査が行われている。

明治時代以降

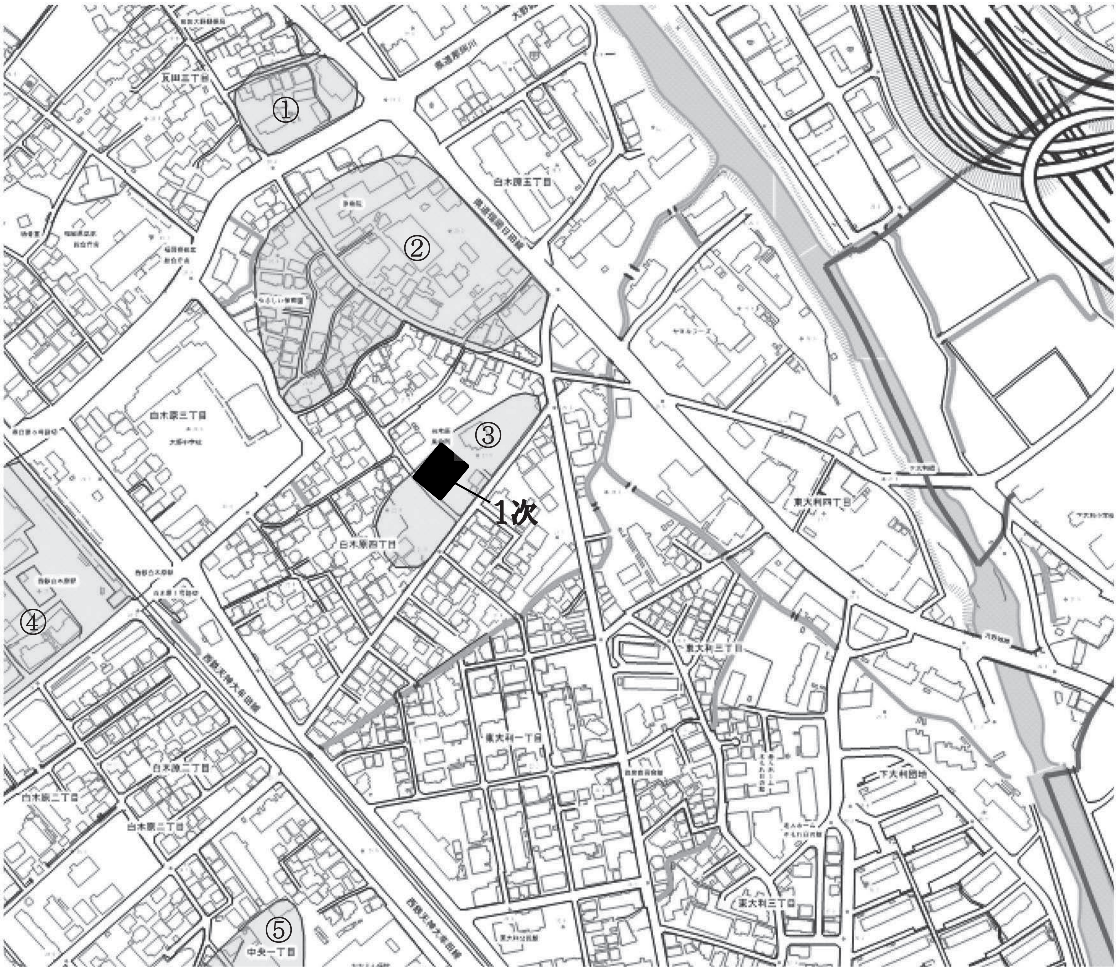
宝松遺跡では江戸時代末から明治期の博多系の人形が出土している。太平洋戦争中に関する遺跡として、野添遺跡や本堂遺跡で本土決戦に備えた洞窟壕が確認されている。また、王城山遺跡では、軍用機の製造を行っていた地下疎開工場が見つかっている。その他、古野・原口遺跡群や後原遺跡では防空壕が確認されている。また、後原遺跡、御供田遺跡では、戦後のアメリカ軍基地に関連する遺構・遺物が確認されている。

Ⅲ．調査の結果

1．調査概要

調査区の現況は海抜高 21.7 mを測る平坦な土地であるが、字図や古い地形図を見ると、調査区の北から南へ下る幅の広い微高地があり、南西隅に小さな谷地形があったと推測される。

調査は排土置き場の関係上、調査区北側を先に調査し、反転作業後、南側を調査する形をとった。令和元年５月 27 日より重機で北側の表土除去を開始し、６月４日から作業員を投入し、人力による遺構掘削を行った。６月 21 日に写真撮影を行い、24 日から 25 日にかけて平面図作成を行った。６月 26 日から７月 12 日まで反転作業を重機で行い、南側の表土を除去した。７月 16 日から作業



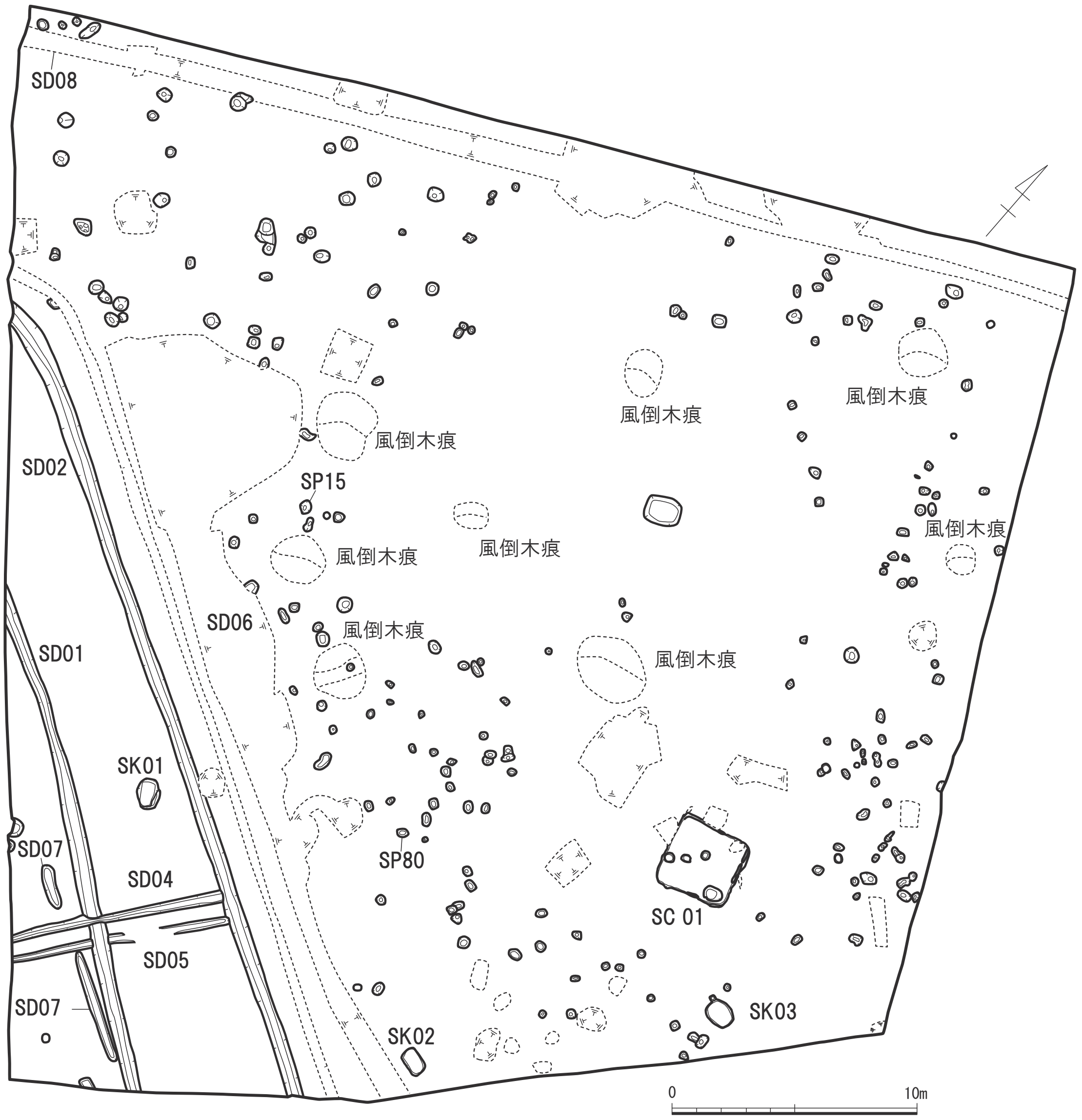
①古賀遺跡　④後原遺跡
②原ノ畑遺跡　⑤ハザコ遺跡
③大道端遺跡

第２図　調査地位置図（1/5,000）

員を投入し、人力で遺構掘削を行い、並行して竪穴住居等の図面作成を行った。８月１日に写真撮影を行い、２日から７日にかけて土坑の図面と平面図の作成を行った。８月８日に現地の機材等の撤去をもって調査を終了した。

調査の結果、竪穴住居１軒、土坑３基、溝状遺構７条、ピット群を確認した。調査区東側では、重機の爪あとが多数確認され､地形が改変された様子が確認された。ピット群は木根の痕跡が多く、柱穴と認識できるものは極めて少ない。また、調査区の中央部から北側にかけて、風倒木痕が８基確認された。風倒木痕は全て調査区の北側に存在していた。確認した８基のうち、６基は北側に黒色埋土、南側に黄色埋土があったため、北風により、南に木が倒れたことが分かる。最も東に位置する風倒木痕と SD06 の横にある３基の風倒木痕のうち、最南端に位置する風倒木痕は、南側に黒色埋土、北側に黄色埋土があることから、南からの風で木が北側に倒れたことが分かる。風倒木痕は時間の制約上、掘削していないため、木が倒れた時期は不明である。

なお、遺物は土師器・陶磁器・ガラス瓶等が出土した。



第３図　遺構配置図（1/300）

２．遺構と遺物

（１）竪穴住居

SC01（第４図、図版２）

調査区南東部に位置する。平面方形プランで、東西 3.2m、南北 3.16m、深さ 0.1 ｍを測る。埋土は黒褐色土の単層である。遺構の北側と西側が重機の撹乱を受け、その他の部分も木根等による撹乱がある。

床面では４つのピットを確認し、北辺・東辺・南辺で壁溝を確認した。北辺の壁溝は幅 10 ～ 14 ㎝、深さ 12 ㎝、東辺の壁溝は幅 10 ㎝、深さは 9.9 ～ 12.5 ㎝、南辺の壁溝は幅７㎝、深さ 11.7 ㎝を測る。主柱穴は不明である。埋土中や床面のピットから土師器が出土した。

出土遺物（第５図、図版４）

土師器（1～5）　１は小型丸底壷である。Ｐ２出土。口縁部がわずかに反り、胴部は扁球形を呈する。口縁部・胴部ともに外面はハケメ、胴部内面はケズリを施す。口縁部・胴部ともに内外面に黒斑がある。２は椀の口縁部の破片であろう。内面にハケメ状の痕跡が見られる。Ｐ３出土。３～５はミニチュア土器である。３点とも埋土中から出土した。３は内外面ともに指頭圧痕が残る。４は底部が欠損している。内面は指オサエ後ナデ、外面は指オサエである。５は内外面ともに指オサエである。

（２）土坑

調査区内でいくつかの土坑を確認した。ほとんどは出土遺物が近現代の遺物であったため、撹乱と判断した。しかし、南部に位置する土坑３基は埋土の状況が近現代のものとは異なるため、それぞれ SK01・SK02・SK03 とし、遺構として認識した。３基とも出土遺物は無く、時期・性格ともに不明である。

SK01（第６図、図版３）

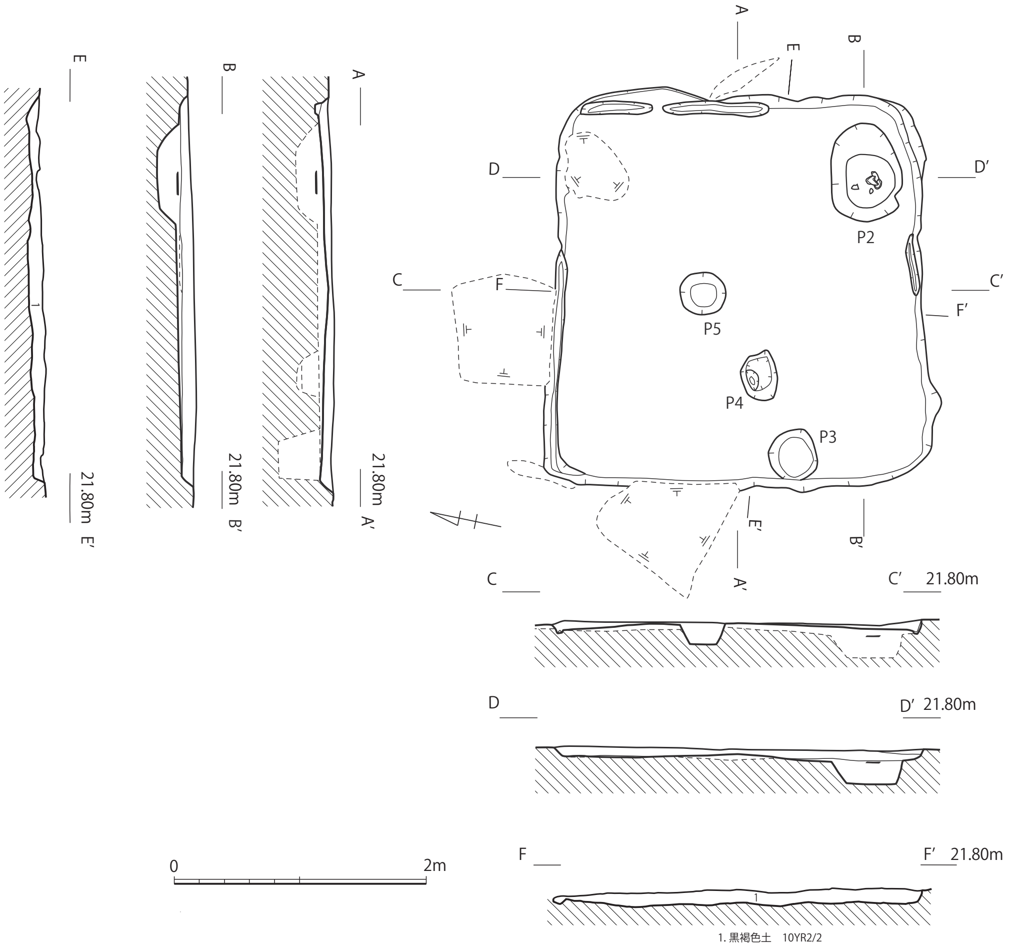
調査区南西部、SD01 と SD02 に挟まれた場所に位置する。長軸 1.23m、短軸 0.95m の楕円形を呈し、南東部にテラスを形成する。深さは約 0.44m である。

SK02（第６図、図版３）

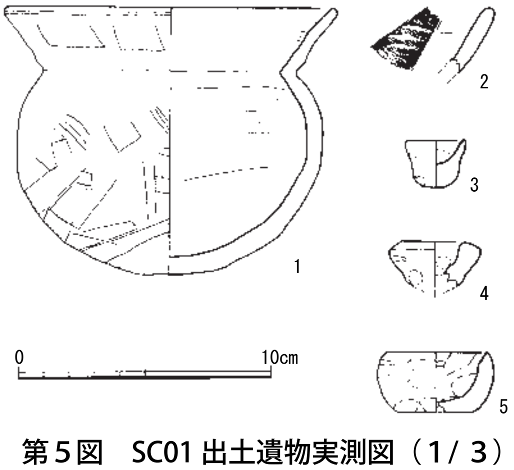
調査区の南部、SD06 の東側に位置する。長軸 1.1m、短軸 0.7m の楕円形を呈する。深さは約 0.45m を測る。

SK03（第６図、図版３）

調査区の南部、SC01 の南側に位置する。長軸 1.15m、短軸 0.94m の楕円形を呈する。深さは約 0.38m を測る。土坑の北側には直径約 0.2 ｍ、深さ約 0.2 ｍのピットがある。土坑・ピットともに出土遺物は無い。



第４図　SC01 実測図（1/60）



第５図　SC01 出土遺物実測図（1/３）

（3）溝状遺構

SD01（第３図、図版２）

調査区南西部に位置する。西―南方向にほぼ直線的にのび、断面は半円形を呈する。西側・南側ともに調査区外へのび、全形は不明である。長さは約 20.8m、幅は約 0.6 ～ 0.8 m、深さは最深部で約0.2ｍを測る。南部でSD04に切られる。また、南側壁面を観察すると、SD07 を切ることが確認された。なお、SD04 のすぐ南を並行する SD05 との切り合い関係は確認できなかった。埋土は黒色土で埋土中より近世土師器が出土した。

出土遺物（第７図、図版４）

土師器（6～11）　６～８は小皿である。６・７は底部の小片である。６は摩滅により調整不明。７は底部糸切り。８は口縁部をヨコナデ、底部は糸切りで、歪みがある。９～ 11 は杯である。３点とも底部は糸切り。

SD02（第３図）

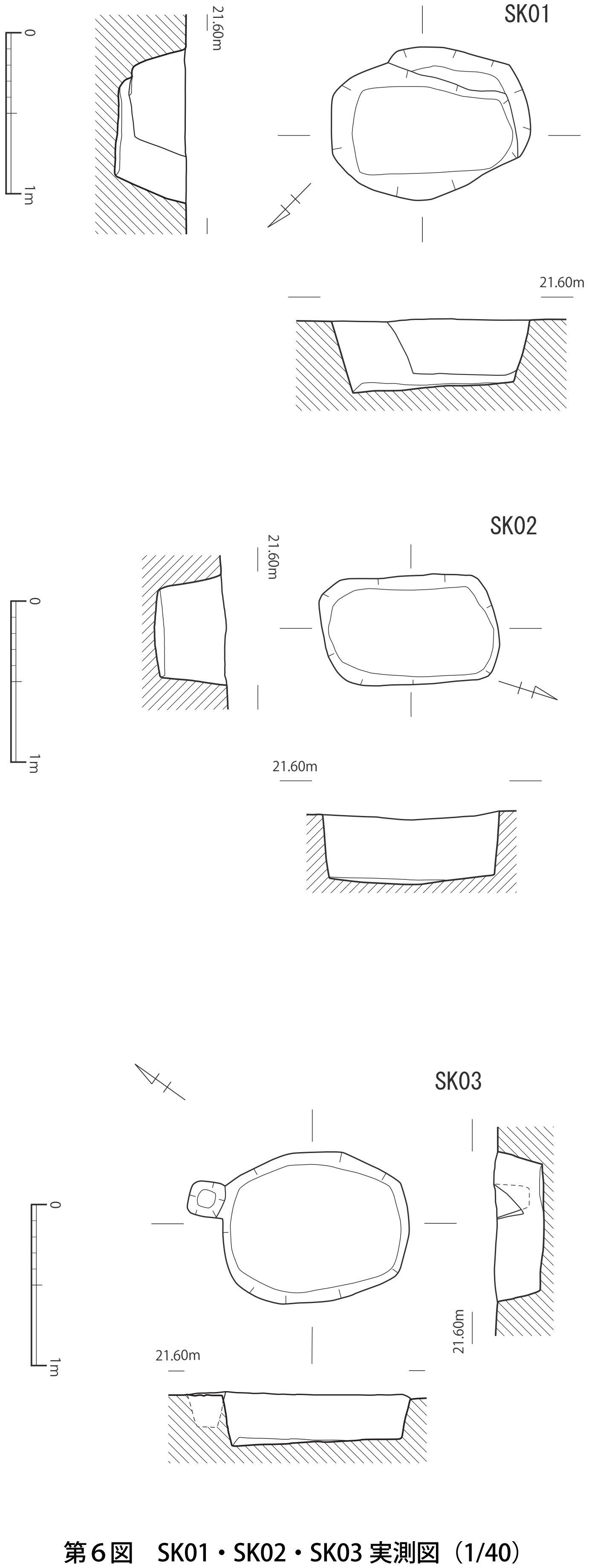
調査区西側に位置し、西―南方向にほぼ直線的にのび、北西部で若干、西側に湾曲する。西側・南側ともに調査区外へのびており、全形は不明である。SD01 に並行するように存在しており、長さは約 33.6 m、幅は約 0.7 ～ 1.0 m、深さは約 0.16 ～ 0.3 m を測る。一部に撹乱があり、本遺構の東側に並行して材質不明の管が設置された溝が存在する。近代陶磁器やガラス瓶、古銭、豆炭、鉄製品、黒曜石片が出土した。

出土遺物（第７図、図版５）

磁器（12）　完形の低圧ノップ碍子である。全体に施釉されるが、底部外面は露胎である。

銅銭（13）　寛永通宝である。

ガラス製品（14 ～ 16）　３点ともガラス瓶である。14 は完形の目薬瓶である。色調は青色で裏面に抉りが入る。また、表面に「特効めぐすり　活眼水　全治」、裏面に「肥前田代　松隈松□堂製」の陽刻がある。判読不明の文字は「齢」と考えられる。15 は完形の薬瓶である。口縁部はスクリュー栓で、色調は茶色である。底部外面に「A」字状の陽刻がある。また、胴部外面には目盛りが陽刻されており、目盛り幅は均等に 1.2cm を測る。16 は完形の食塩瓶であろう。無色透明で、口縁部はス



第６図　SK01・SK02・SK03 実測図（1/40）

クリュー栓である。胴部外面の下端に「☆日本専売公社☆」の陽刻がある。また、底部外面に菱形と「11」の陽刻がある。

SD04（第３図）

調査区南側に位置する溝である。西―東方向に直線的にのびる。東側は SD02 に突き当たっており、西側は調査区外にのびているため、全形は不明である。また、南西部で SD01 を切り、SD05 に並行する。長さは約 8.7m、幅は約 0.3 ～ 0.5 m、深さは最深部で 0.22 mである。図示していないが、近代陶磁器片や近代瓦片が出土した。

SD05（第３図）

調査区南側に位置する溝である。西―東方向に直線的にのびる。東側は SD02 に突き当たる。西側は調査区外へのび、全形は不明である。長さは約 8.9m、幅は約 0.25 ～ 0.4 m、深さは最深部で約 0.14 mを測る。SD01 と SD02 の中間の部分で、重機の爪あとにより一部が消失していた。また、SD04 に並行する。なお、SD01 との切り合い関係は確認できなかった。遺物は出土していない。

SD06（第３図）

調査区西側に位置する溝である。南―西方向にのびているが、途中から不定形になる。南側は調査区外へのびており、全形は不明である。長さは約 32.8m、幅は不定形部を含め、約 0.6 ～ 7.1 m、深さは最深部で 0.7 mを測る。

出土遺物（第７図、図版５）

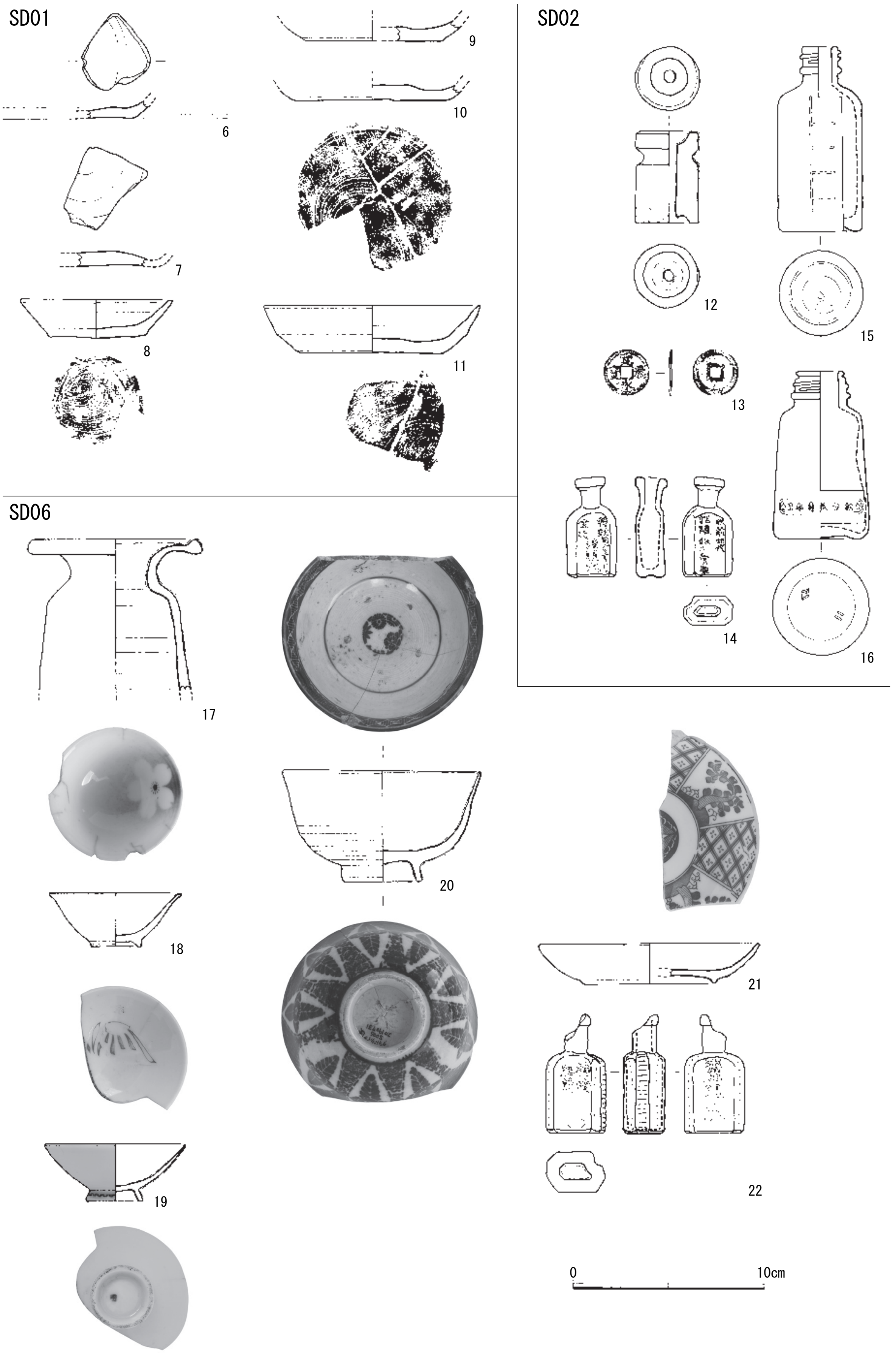
陶器（17） 瓶である。頸部から口縁部にかけて外反し、口縁部で盛り上がる。胴部を欠くため全形は不明であるが、花瓶であろう。残存部の外面には釉薬が掛かっているが、胴部内面には露胎部がある。

磁器（18 ～ 21） 18・19 は小杯である。18 は口縁部が外反し、内面には桜の色絵を青色と茶色で描く。19 は内面に朱色と金色の色絵を描く。また､高台には青色のジグザグ文､底部外面には「田」のような銘と思われる色絵を青色で描く。２点とも全体に施釉されているが、畳付きのみ釉ハギする。20 は椀である。底部内面は呉須で花文が描かれ、口縁部内面は青色の格子状文がめぐる。外面には、青色の波状文と菱形の窓を交互にめぐらし、窓の中には青色で菊花文を描く。また、内面には目跡が残る。21 は皿である。内面は緑色の色絵で植物と格子文を交互に描く。高台底部は釉ケズリ。

ガラス製品（22） 目薬瓶である。色調は青色で口縁部が欠損する。表面には「肥前神埼」、裏面には「麗眼水」、側面には目盛りの陽刻が入る。また、表面と側面の間に１㎜程の突起物の陽刻が文字の陽刻を取り囲むように存在する。

SD07（第３図、図版２）

調査区西側に位置する溝である。SD01 の西側に位置する。西―南方向にのび、SD04 の北側で一旦途切れ、SD05 南側から SD01 の西側までのびる。本来はさらに続いていたと見られ、SD01 の南側の壁面を見ると SD07 が SD01 に切られている状況が確認された。埋土は黒色土。残存長は 8.5m、幅は約 0.2 ～ 0.5m、深さは最深部で約 0.05m を測る。出土遺物は無い。



第７図　SD01・SD02・SD06 出土遺物実測図（1/3）

SD08（第３図）

調査区の北側に位置する溝である。西—東方向にほぼ直線的にのびる。東側・南側ともに調査区外へのびており、溝の全形は不明である。長さは約 43.8m、幅は約 0.5 ～ 1.0m、深さは最深部で約 0.65m を測る。西部・中央部・東部にそれぞれ撹乱が見られる。出土遺物は近代陶磁器片、近代瓦片、鉄製品、ガラス瓶等、近代の遺物が多い。また、黒曜石片が出土している。

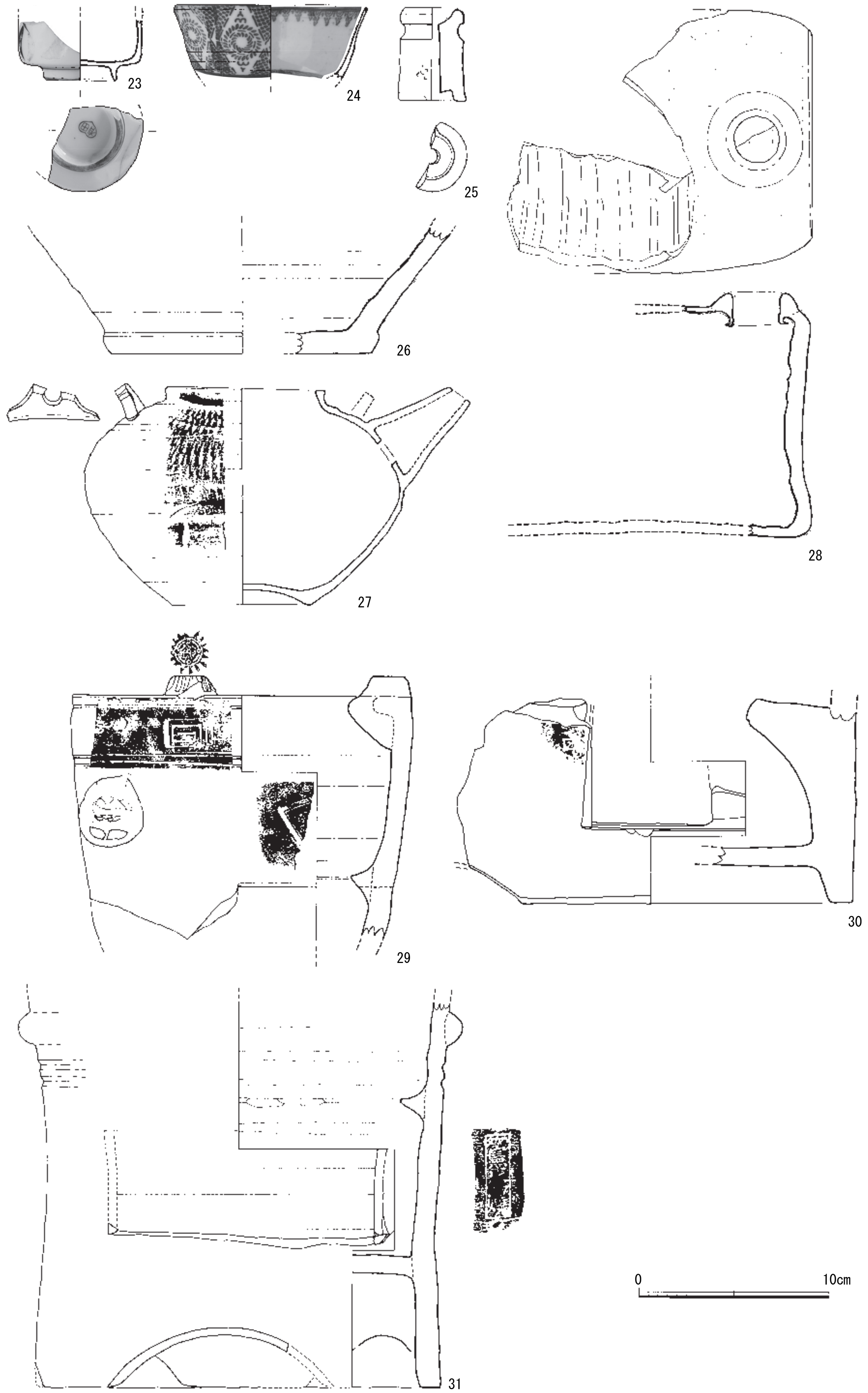
出土遺物（第８・９図、図版６）

磁器（23 ～ 25）　23 は湯呑である。胴部外面に赤・黒・黄の色絵を描き、高台部の上端に赤の線がめぐる。また、底部外面は赤色でハートマークの中に、赤字で「有田」の文字を描く。24 は椀であり、高台部を欠損する。口縁部内面に青色の瓔珞状文をめぐらし、外面に青色で菱形の窓と点描地状文を交互にめぐらす。菱形窓の中には瓔珞状文と連点状文を描く。模様は印刷され、印刷のズレが確認できる。25 は低圧ノップ碍子である。外面、孔部は施釉し、底部は露胎である。胴部に青色の印章がわずかに残る。

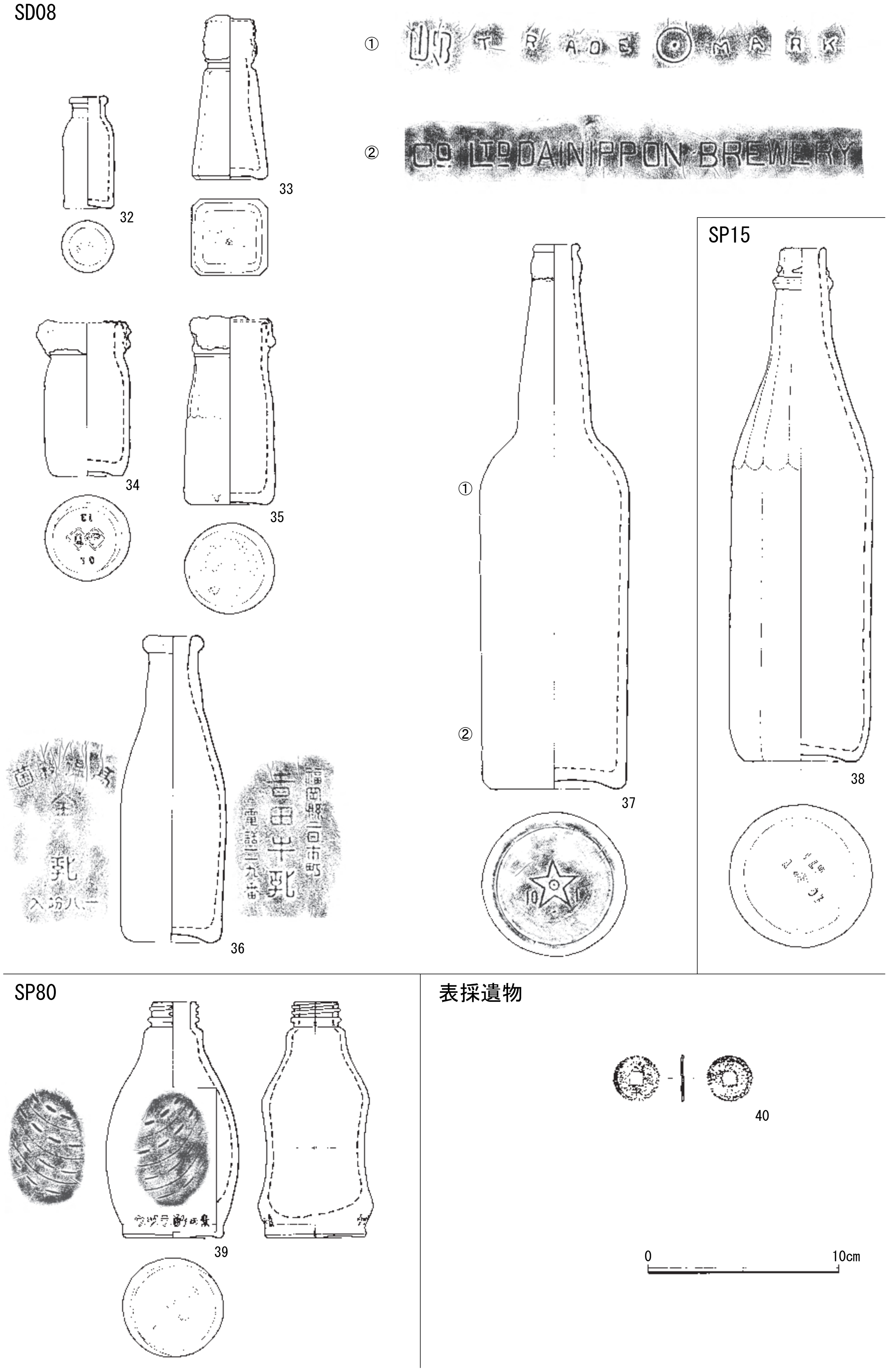
陶器（26 ～ 28）　26 は甕の底部片である。底部内面の一部は剥離しているが、それ以外は釉を施す。外面は釉を施すが、底部外面は露胎である。また、胴部と底部の間に段を作る。27 は土瓶である。胴部外面の上半分は施釉し、飛び鉋を施す。胴部外面下半分は無釉で黒く変色する。28 は湯たんぽである。外面全体に釉を施す。内面は無釉部がある。孔部は棒状のもので開けたのか、内面に穿孔痕跡がある。

土師質土器（29 ～ 31）　３点とも七輪である。29 は、胴部上面に付着する突起部に装飾が施される。上部外面には雷文、草状文が施され、文様の上に１条線、下に２条線がめぐる。胴部左端には獅子と思われる装飾が付くが、摩滅のため認識できない。胴部右端は欠損するが、何らかの文様の一部が残る。30 は底部である。欠損のため判読できないが、上端部に文字の陰刻がある。31 は残存上端部に取手らしきものを取り付け、その下に沈線を２条めぐらせる。胴部中央は「ハカタ憲□□焼」の陰刻をする。底部はアーチ状に３ヵ所開く。29 ～ 31 は途中で欠損しているが、火入れ口が残る。

ガラス製品（32 ～ 37）　５点ともガラス瓶である。32 は無色透明である。底部外面に「Ｋ２」の陽刻がある。33 は口縁部全体が赤茶色の錆に覆われる。底部外面に「Ｓ＆Ｂ」の陽刻があり、塩胡椒瓶であろう。色調は無色透明。34 の色調は透明で、口縁部は赤茶色の錆に覆われる。底部外面は「13　ＱＰ　10」の陽刻があり、キューピー株式会社のマヨネーズ瓶であろう。35 の色調は透明で、口縁部は赤茶色の錆が付着する。底部外面は「ＡＩＣＨＩＴＯＭＡＴＯ　ＣＯ　59」の陽刻が六芒星を囲むように配置される。愛知トマト株式会社（1949 ～ 1963 年※現カゴメ株式会社）のトマトソース瓶であろう。色調は無色透明である。36 は牛乳瓶である。色調は無色透明である。胴部外面に「福岡縣二日市町　吉田牛乳　電話一一九番」、「髙温殺菌　全乳一. 八竕入」の陽刻がある。37 は大日本ビール瓶である。色調は茶色で、口縁部は王冠栓である。底部外面は五芒星と「10　1」の陽刻があり、五芒星の中には円形がある。胴部外面の上部には「ＤＢ　ＴＲＡＤＥ◎ＭＡＲＫ」、胴部外面の下部には「ＣＯＬＴＤ　ＤＡＩＮＩＰＰＯＮ　ＢＲＥＷＥＲＹ」の陽刻がある。



第８図　SD08 出土遺物実測図①（1/3）



第９図　SD08 出土遺物実測図②、ピット群出土遺物実測図、表採遺物実測図（1/3）

（4）ピット出土遺物（第９図、図版６）

SP15

ガラス製品（38） 瓶である。無色透明で、スクリュー栓である。底部外面に「20　Ｙ　671」の陽刻があり、陽刻の周りに線描の陽刻をめぐらす。20 とＹの間に菱形の陽刻があり、菱形の中に円形が４つある。

SP80

ガラス製品（39） 瓶である。口縁部はスクリュー栓であり、色調は青緑色である。底部外面に「７　180㎖　Y」の陽刻がある。胴部外面下端には「ウヅラ酢の素」の陽刻がある。また、胴部外面の表面・裏面ともに鳥の羽の装飾を陽刻する。大興産業株式会社（1919 年～）の食用酢瓶である。

（5）その他出土遺物（第９図）

銅銭（40） 色調は黄灰色で、調査区内で表採した。「永」の字以外は読み取れない。寛永通宝か。

Ⅳ．総　括

調査の結果、竪穴住居、土坑、溝状遺構、ピット群を確認し、土師器や陶磁器、ガラス製品が出土した。遺構・遺物から、本調査区の各時代の様相は以下の通りとなる。

縄文時代と位置づけられる明確な遺構は無いが、北東部のピットの１つから、縄文土器の細片が出土した。また、SD02 や SD08 から黒曜石片が出土したことから、当該地域で縄文時代に何らかの活動があったと考えられる。

古墳時代前期の遺構として SC01 がある。本調査区から北に 100 ｍの地点には原ノ畑遺跡が展開する。原ノ畑遺跡は、これまでに５次の調査が行われており、北側で奈良時代の集落、南側で古墳時代前期の集落が確認されている。このことから、SC01 は原ノ畑遺跡から続く集落の一部と考えられ、古墳時代前期の集落の広がりを確認できた。しかし、SC01 周辺に同時期の遺構・遺物はなく、地形の改変で遺構が消失している可能性も考えられる。なお、SC01 ではミニチュア土器が出土しており、住居内で何らかの祭祀を行っていたと考えられる。

近世の遺構として SD01 を確認した。また、出土遺物がないため、時期は不明だが、SD01 に切られる SD07 は SD01 より古い遺構である。

近代以降の遺構として、SD02・SD04・SD06・SD08 を確認した。字図を確認すると、調査地の南西に隣接する小字原ノ前と大道端の字界線が SD02 を通るように引かれている。このことから、SD02 は字大道端と隣接する字原ノ前との境界を明示する区画溝の可能性がある。

その他、時期不明の遺構として、SK01・SK02・SK03・SD05 がある。ピット群は木根跡が多く、建物や柵列を構成するものは無い。

今後第 1 次調査区周辺の調査を進め、周辺地区の遺構の広がりを明らかにしていくことで、SC01 の性格や大道端遺跡の性格がより明確になっていくものと考えられる。

【参考文献】

上田龍児編『原ノ畑遺跡２』 大野城市文化財調査報告書　第 118 集　2014 年

大野城市史編さん委員会編『大野城市史　上巻』2005 年

舟山良一編『瑞穂・原ノ畑遺跡』 大野城市文化財調査報告書　第 57 集　2001 年

第 10 図　調査地周辺字図（1/3,500）

第１表　大道端遺跡第１次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径（cm） ※（　）復元値 〈　〉残存値	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
1	土師器	小型丸底壺	SC01	①13.2 ②10.6 頸部径：（10.0）	内面：ケズリ、ナデ 外面：ハケメ、ナデ	A：1.0ｍｍ～4.0ｍｍの白色砂粒を多く含む B：良好 C：（内）にぶい橙7.5YR7/4 （外）にぶい橙7.5YR7/4、にぶい橙7.5YR6/4	
2	土師器	椀？	SC01	②〈3.15〉	小片のため不明	A：微細な白色・褐色砂粒を含む B：良好 C：（内外とも）にぶい橙7.5YR6/4	口縁部小片 内面にハケメ状の痕跡あり
3	土師器	ミニチュア土器（鉢）	SC01	①（2.4） ②1.9	内面：指オサエ 外面：指オサエ	A：1.0ｍｍ～5.0ｍｍの白色砂粒、白色石を含む B：良好 C：（内）にぶい橙7.5YR7/4、黒褐7.5YR3/1 （外）にぶい褐7.5YR6/3	
4	土師器	ミニチュア土器（鉢？）	SC01	①（3.6） ②〈1.8〉	内面：指オサエ、ナデ 外面：指オサエ、ナデ	A：微細～1.0ｍｍ程の白色砂粒を含む B：良好 C：（内）にぶい橙7.5YR7/4（外）橙7.5YR7/6	
5	土師器	ミニチュア土器（鉢）	SC01	①（4.0） ②2.35 ③（3.0） ⑤（4.6）	内面：指オサエ 外面：指オサエ、ナデ	A：1.0ｍｍ～5.0ｍｍの白色砂粒、白色石を含む B：良好 C：（内）橙7.5YR7/6 （外）にぶい橙7.5YR6/4、黒褐10YR3/1	
6	土師器	小皿	SD01	②〈0.9〉	摩滅により調整不明	A：微細～2.0ｍｍ程の白色砂粒を含む B：良好 C：（内外とも）浅黄橙7.5YR8/3	
7	土師器	小皿	SD01	②〈0.85〉	内面：ナデ 外面：糸切り	A：微細～3.0ｍｍ程の白色砂粒、微細な褐色砂粒、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）にぶい橙7.5YR7/3	
8	土師器	小皿	SD01	①（7.9） ②2.05 ③5.1	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、糸切り	A：微細な白色砂粒、石英、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）灰白10YR8/2	歪みあり
9	土師器	杯	SD01	②〈1.05〉 ③（7.4）	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、糸切り	A：微細な砂粒、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）にぶい橙7.5YR7/3	
10	土師器	杯	SD01	②〈0.8〉 ③8.2	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、糸切り	A：微細～2.0ｍｍ程の白色砂粒、石英、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）浅黄橙7.5YR8/4	
11	土師器	杯	SD01	①（11.4） ②2.5 ③（7.4）	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、糸切り	A：微細～2.0ｍｍ程の白色・褐色砂粒、角閃石、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）にぶい橙7.5YR7/4	
12	磁器	碍子	SD02	②4.8 ⑤3.4 孔径：0.6 頸部径：2.6	孔内面：施釉 外面：施釉、釉だれ、露胎	A：精良 B：堅緻 C：（胎土）灰白10YR8/1　(釉)灰白N8/	
13	銅製品	銭	SD02	長：2.45 幅：2.45 厚：0.15 重：2.0ｇ		C：灰黄褐、緑青部分あり	寛永通宝
14	ガラス製品	目薬瓶	SD02	①1.6 ②5.2 幅：2.6 厚：1.5	正面:「特効めぐすり 全治 活眼水」の陽刻 裏面:「肥前田代 松隈松□堂製」の陽刻	C：青色着色	
15	ガラス製品	瓶	SD02	①1.8 ②9.65 ③4.4	胴部外面に目盛の陽刻 底部外面に「A」字状の陽刻	C：茶色着色	
16	ガラス製品	瓶	SD02	①2.55 ②8.75 ③5.05	胴部外面：「☆日本専売公社☆」の陽刻 底部外面：「11」と菱形の陽刻	C：透明	
17	陶器	瓶	SD06	①9.2 ②〈8.0〉 頸部径：4.7	内面：施釉、露胎 外面：施釉	A：精良 B：良好 C：（胎土）褐灰7.5YR6/1 （内面釉）灰オリーブ5Y6/2 （外面釉）灰オリーブ5Y5/2	花瓶？
18	磁器	小杯	SD06	①7.0 ②2.8 ④2.6	内面:施釉 外面:施釉、露胎	A：精良 B：良好 C：（胎土）灰白N8/　（釉）透明	桜花の絵
19	磁器	小杯	SD06	①（7.4） ②3.0 ④3.0	内面：施釉 外面：施釉、露胎	A：精良 B：良好 C：（胎土）灰白N8/　（釉）透明	
20	磁器	椀	SD06	①10.5 ②5.85 ④4.1	内面:施釉 外面:施釉	A：精良 B：良好 C：（胎土）灰白2.5Y2/1　（釉）透明	
21	磁器	皿	SD06	①（11.6） ②2.1 ④（7.0）	内面:施釉 外面:施釉、露胎	A：精良 B：良好 C：（胎土）灰白N8/　（釉）透明	銅版転写

第２表　大道端遺跡第１次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径（cm） ※（　）復元値 〈　〉残存値	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
22	ガラス製品	目薬瓶	SD06	②6.2 幅：3.15 厚：2.1	正面:「麗眼水」の陽刻 裏面:「肥前神埼」の陽刻 側面:目盛りの陽刻	C：青色着色	
23	磁器	湯呑	SD08	②〈3.2〉 ④3.9 ⑤6.6	内面：施釉 外面：施釉、露胎、色絵	A：精良 B：堅緻 C：（胎土）灰白N8/　（釉）透明	肥前
24	磁器	椀	SD08	①（10.2） ②〈3.9〉	内面:施釉 外面:施釉	A：精良 B：良好 C：（胎土）灰白2.5GY8/1　（釉）透明	
25	磁器	碍子	SD08	②4.85 ⑤（3.6） 孔径：（0.8） 頸部径：（2.8）	孔内面：施釉 外面：施釉、釉だれ、露胎	A：精良 B：堅緻 C：（胎土）灰白7.5Y7/1　（釉）灰白N8/	青色の印章がわずかに残る
26	陶器	甕	SD08	②〈6.6〉 ③（13.7）	内面：施釉 外面：施釉、露胎	A：微細～4.0ｍｍの砂粒、白色石を含む B：良好 C：（内面胎土）にぶい橙7.5YR7/3 （外面胎土）にぶい橙7.5YR7/3、 褐灰10YR5/1 （内面釉）赤灰2.5YR6/1、橙2.5YR6/6 （外面釉）にぶい黄橙10YR6/3	底部のみ
27	陶器	土瓶	SD08	①8.4 ②11.65 ③7.4 ⑤16.85	内面：露胎 外面：施釉、露胎、飛び鉋	A：精良 B：発色良好 C：（内面露胎部）にぶい橙色（釉）黄橙10YR8/6	
28	陶器	湯たんぽ	SD08	②13.25 長：13.8 幅：16.0 孔部径：2.3	内面：施釉 外面：釉だれ	A：細かい砂粒を少量含む B：良好 C：（胎土）灰黄褐10YR6/2 （内部釉）黄味を帯びたオリーブ褐色 （外部釉）黄味を帯びたオリーブ褐色、 明るい緑灰の釉を上がけ	内面に付着物あり
29	土師質土器	七輪	SD08	①（18.0） ②〈13.8〉	内面：ナデ 外面：ナデ	A：微細から4.0ｍｍ程の白色砂粒、白色石を含む B：良好 C：（内）にぶい橙7.5YR6/4 （外）褐灰10YR5/1	頂面・側面に文様 外部側面に獅子？の装飾
30	土師質土器	七輪	SD08	②〈10.7〉 ③（20.8）	内面：指オサエ、ナデ 外面：ナデ	A：白色砂粒、雲母を含む B：良好 C：（内）にぶい橙7.5YR7/4、灰褐7.5YR4/2 （外）にぶい赤褐5YR5/4、褐灰5YR4/1	文字の陰刻あり
31	土師質土器	七輪	SD08	②〈20.2〉 ③21.35 ⑤（23.4）	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、ナデ	A：白色砂粒、3.0ｍｍ程の長石、輝石、雲母を含む B：良好 C：（内外とも）にぶい黄橙10YR6/3～褐灰10YR4/1	文字の陰刻あり
32	ガラス製品	瓶	SD08	①2.0 ②5.85 ③2.5	底部外面：「Ｋ2」の陽刻	C：透明	
33	ガラス製品	瓶	SD08	②8.6 幅：4.0 厚：4.0	底部外面：「Ｓ＆Ｂ」の陽刻	C：透明	蓋部に赤茶の錆が付着
34	ガラス製品	瓶	SD08	②8.1 ③3.7 ⑤4.5	底部外面：「13　ＱＰ　10」の陽刻	C：透明	蓋部に赤茶の錆が付着
35	ガラス製品	瓶	SD08	②9.9 ③4.6 ⑤4.75	底部外面：「ＡＩＣＨＩＴＯＭＡＴＯ ＣＯ　59」の陽刻	C：透明	蓋部に赤茶の錆が付着
36	ガラス製品	牛乳瓶	SD08	①3.2 ②16.1 ③4.9 ⑤5.5	胴部外面：「福岡縣二日市町　吉田牛乳 電話一一九番」、 「髙温殺菌　全乳　一．八竕 入」の陽刻	C：透明	
37	ガラス製品	ビール瓶	SD08	①2.45 ②28.65 ③7.55 ⑤7.8	胴部外面：「ＤＢＴＲＡＤＥ◎ＭＡＲ Ｋ」、 「ＤＡＩＮＩＰＰＯＮ　ＢＲ ＥＷＥＲＹ　ＣＯＬＴＤ」 の陽刻 底部外面：「10　1」の陽刻	C：茶色着色	
38	ガラス製品	瓶	SP15	①2.4 ②27.0 ③6.1 ⑤7.5	底部外面：「20　Ｙ　671」の陽刻	C：透明	
39	ガラス製品	瓶	SP80	①2.3 ②12.4 ③5.3 ⑤7.15	底部外面：「7　180ml　Y」の陽刻 胴部外面：「ウヅラ酢の素」の陽刻 鳥の羽の装飾	C：透明（青緑）	
40	銅製品	銭	調査区表採	長：2.45 幅：2.45 厚：0.15 重：2.0g		C：黄灰色、緑青部分あり	寛永通宝か？

図　　版

凡例）遺物写真の番号は、挿図番号と同一である。

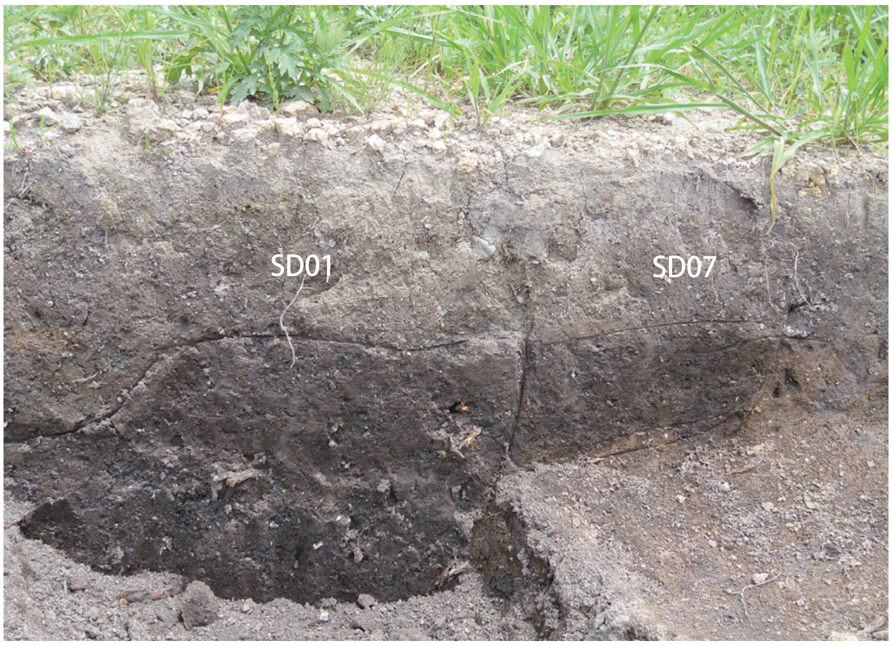
（1）調査区北側全景「上が北」（東上空から）

（2）調査区南側全景「上が北」（東上空から）

図版 2

（1）SC01 全景
（東から）

（2）SC01 土層
（西から）



（3）SD01・SD07
南側壁面土層（北から）

（1）SK01
（北から）

（2）SK02
（南から）

（3）SK03
（東から）

図版 4

1

2

3

4

5

8

7

6

10

11

9

出土遺物①（SC01、SD01）

図版 5

出土遺物②（SD02、SD06）

図版 6

29

30

31

39

37
27
36
28
25

出土遺物③（SD08、ピット）

報告書抄録

ふりがな	だいどうばたいせき
書名	大道端遺跡 1
副書名	第 1 次調査
巻次	1
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 183 集
編著者名	木原　尭
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町 2-2-1　　電話　092（501）2211
発行年月日	2021 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だいどうばたいせき 大道端遺跡	ふくおかけんおおのじょうししらきばる 福岡県大野城市白木原4丁目90 番5･6､143番3､144番2	40219		33° 31′ 44″	130° 29′ 10″	2019年 5月27日 ～ 2019年 8月8日	約1,600㎡	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大道端遺跡	遺跡	古墳時代・ 近世・近代	竪穴住居・ 土坑・溝	土師器・ 陶磁器・ ガラス製品	

要約	大道端遺跡は、大野城市域が最も狭くなる場所に位置し、白木原４丁目に所在する。古墳時代前期の竪穴住居と時期・性格共に不明な土坑、近世から近代にかけての溝状遺構を確認した。 竪穴住居は本遺跡の北側約100ｍの場所に位置する集落遺跡、原ノ畑遺跡に付随するものと考えられ、集落の広がりを考える上で、貴重な成果となった。 遺物は、古墳時代前期と近世の土師器、近代の陶磁器、ガラス製品が出土した。

大道端遺跡 1

ー第１次調査ー

大野城市文化財調査報告書　第183集

令和３年３月31日

発行　大野城市教育委員会

〒816-8510　福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷　コーユービジネス株式会社

〒812-0011　福岡県福岡市博多区
博多駅前3-13-1　林英ビル